

鶴田町議会教育民生常任委員会 視察研修報告

視察先 高知県高知市、大豊町、土佐町
日程 平成29年8月23日(金)～25日(日)
参加者 小関優、蒔苗愛子、一戸豊、三浦勉、北谷正則、神秀次郎

【教育民生常任委員会】町民生活課、健康保険課及び教育委員会の所管に属する事項並びに総務課の所管する事項のうち消防、水防及び防災に関する事項について調査や議案、陳情などの審査を行う町議会常設の委員会

今回、教育民生常任委員会では高知県を訪問し、長い期間をかけた人材育成を学ぶために「とさつ子タウン」、平成32年に開校予定の統合小学校を見据え、閉校した小学校の有効活用事例として「学校に泊まろう！みどりの時計台」、県立高校と連携した人材育成を学ぶために土佐町を視察しました。

■とさつ子タウン（高知市）

とさつ子タウンは、「高知ならではの仕事や文化、遊びを楽しく体験する」「異年齢間のコミュニケーションが生まれる場」「社会の仕組みを知ってもらう」の3点にこだわり、子どもたちに現実の社会やまちへ関心を持つてほしいという想いで取り組んでいます。

ドイツのミュンヘンで30年以上続くイベント「ミニ・ミュンヘン」を参考に、高知市で平成21年から毎年開催され、今年で9回目を迎えました。

とさつ子タウンは、2日間だけ

現れる架空のまちであり、小学4年生から中学3年生の子どもたちが、ハローワークで仕事を探し、市役所、銀行、お菓子工場やアクセサリーショップなど約50種類の職業から就きたい仕事を選べます。専門家の指導を受けながら働き、独自通貨の給料をもらい、税金を納め、買い物や食事を

楽しむことができます。稼いだお金で起業もでき、選挙を経て市長や議員になり、架空のまちの仕組みを変えられることもできます。

事業の実施は、市民活動サポートセンターとNPO高知市民会議、高校生や大学生も入った実行委員で実施されています。市民活動サポートセンターとは、市民が行う自由で営利を目的としない社会貢献活動（市民活動）を支援する目的で設立された公共の施設で、NPO高知市民会議が指定管理者として運営していま



△とさつ子タウンについての研修点館

多く、次世代のボランティア人材、今後のまちづくりに関わる若者の利用が少ないことから若者の利用者を増やす。

②市民活動サポートセンターの事業内容

↓子どもが継続的に参画できる事業がないことから、子どもが継続して参画できる事業を作る。

この2点に着目し、この問題を解決するための手段として、「とさつ子タウン」が始まりました。9年間継続して行った結果、現在では参加者が約400人。とさつ子タウンの卒業生で、運営者として関わっている学生が30人以上。スタッフは150人以上。協力企業64社。協賛企業17社。このような事業となっています。

「若者の参画が少ない。まちづくりに興味がない」などは、全国の自治体でも少なからず抱えている問題です。「とさつ子タウン」で育った子どもたちは、将来まちづくりに興味を持ち、さまざまな場面で活躍してくれるでしょう。また、長い期間をかけたまちぐるみで行う人材育成は、郷土愛を育み、定住やUターンにつながると考えられます。

■学校に泊まろう！みどりの時計台

時計台（大豊町）

大豊町は、高知市の北、四国山地の中央、土佐嶺北地域にあり、吉野川が町のほぼ中央部を流れ、



△小学校を活用した「学校に泊まろう！みどりの時計台」

約88%を山林が占める、主産業が林業の人口約4千人の町です。山間部にあるこの施設（写真真）の経営者は移住者です。20年前にラフティング（ゴムボートなどを使った川下り）のガイドをやりたいと思い大豊町に移住しました。当初は民家を借りて住んでいましたが、山間部のために仕事が少ない、仕事を探しているとき、廃校となったこの小学校に一目惚れしたそうです。

この学校を有効に活用するためには、どのようにすれば良いか知恵を絞ったとき、①自分はラフティングが好きで大豊町に移住した②ラフティングに来るお客様のための宿泊施設がなく、せっかく来たお客様が大豊町に宿泊せず帰っている。この2点に着目し、宿泊施設として活用することを町に提

案し町から借り受け、平成18年から宿泊施設として経営しています。元小学校の特徴を生かし、図書室、音楽室など学校の雰囲気そのままに、民間の知恵を最大限に発揮し、少ない予算で運営しています。

■県立高校と連携した人材育成（土佐町）

土佐町は、高知市の北、四国山地の中央の土佐嶺北地域の中にあり、「四国のいのち」といわれる早明浦ダムを有し、主産業は農業、人口約4千人、山林が約85%を占める町です。また、土佐町は十和田市（旧十和田湖町）と姉妹都市交流を行っており、毎年10人程度の小学生が十和田市を訪れています。平成21年には学校の統廃合が行われ、町内には町立保育園1園、



△小学校の内観をそのまま残したみどりの時計台の施設内部

平成28年度から始まった、嶺北高校魅力化プロジェクトでは、全国から生徒が集まるような高校にするためには尖ったものが一つ必要ということで、①本山町にモンベル（アウトドア用品販売）があり、土佐嶺北地域に訪れる人が増えていること②昔、嶺北高校カヌー部が強かったこと、この2点に着目し、嶺北高校カヌー部を再び強化し、オリンピック選手を輩出する高校となることで、全国から生徒が集まる高校にし

町立小中学校1校（同居型）があります。また、中学卒業後は、多いときで7割程度が隣町（本山町）にある県立嶺北高校に進学しています。

2年前に町長が変わり、「持続可能な地域づくりをするためには、中山間地域における公教育の確保と地域の未来を担うひとづくりが重要」という基本方針が示され、嶺北高校を中心とした教育・人材育成という目的で、地域おこし協力隊2人が採用されました。地域おこし協力隊の活動内容は、①学校教育支援事業として、総合的な学習の授業の企画・運営、英検対策支援、学習支援など②社会教育事業として、土佐町座談会、土佐町マイプロジェクトなど③嶺北高校魅力化プロジェクトなどです。

ようとしています。

また、嶺北高校のICT環境整備、遠隔授業を行うためタブレット40台を土佐町の予算で導入しています。

このような活動を進めていった結果、地域おこし協力隊として活動するにはいろいろな制約があるため限界があり、平成29年度からは、島根県海士町「島前教育魅力化プロジェクト」で活躍している方を招き、地域おこし協力隊を退職した方などで、NPO法人「SOMA」を立ち上げ、このプロジェクトを加速化させています。

土佐町は、本山町にある嶺北高校を地元の高校として支援しています。土佐町の教育長は「町民も、移住して来る方も、自分の子どもが高校を卒業するまで一緒に暮らせるのが移住定住の一つの条件。そのため、この地域に高校があるかないかは死活問題。県立でダメなら市町村立も検討する」と話されていました。

今回、「とさつ子タウン」、「学校に泊まろう！みどりの時計台」、土佐町を視察して改めて確認できたことは、町を発展させるためには、①小さいころから長い期間をかけ人材を育てる必要があること②地域おこし協力隊や移住者など、お金を掛けてでも外部の人を積極的に獲得し、外部からの視点や新しい風を取り入れること③やる気のある人・行動する人を支援すること④近隣市町村と連携し地



△土佐町での研修

域としての魅力を高めること。この4点が大切だと思います。

鶴田町は、大人の休日倶楽部の宣伝以降、鶴の舞橋にたくさんのお客が訪れています。その多くが鶴田町には宿泊せず、素通りしているといわれています。これは宿泊施設が足りないためか、または違うところに原因があるのか。そして平成32年には、小学校5校が閉校となり、閉校となった小学校は、①町の他の施設への転用②貸出③譲渡④取り壊しなどが考えられます。

これからの鶴田町のことを、未来を担う子どもたち、やる気があり行動している町民、新しい風をもたらす外部の人などで話し合い、観光に関するを含めグラウンドデザインする必要があると思います。

【有料広告】

収入保険がはじまります！

✓新しく導入される収入保険では、保険料の掛金率は1%程度で、農家ごとの平均収入の8割以上の収入が確保されます！

（これまでの農業共済は、品目が限定され、価格低下による収入減は対象外でした。）

*掛金率は、現時点の試算です。損害が発生しなかった場合は、翌年の保険料が下がります。

✓米、野菜、果樹、たばこ、茶、しいたけ、はちみつなど、農産物ならどんな品目でも対象になります！

*マルキン等の対象である肉用牛、肉用子牛、肉豚及び鶏卵は、対象外です。

*収入保険に加入するために必要な青色申告は、簡易な方式でよく、1年の実績があれば加入できます。新規就農者でも加入することができます。

*収入保険は、平成31年からスタートします。

加入条件や補償内容など詳しいことは、NOSAI津軽広域、NOSAI青森にお問い合わせください。

■NOSAI津軽広域

☎0173-33-1513 mail: nosait@jomon.ne.jp

■NOSAI青森

☎017-775-1161 mail: kensyusido@nosai-aomori.or.jp

農林水産省